

4、熊野神社

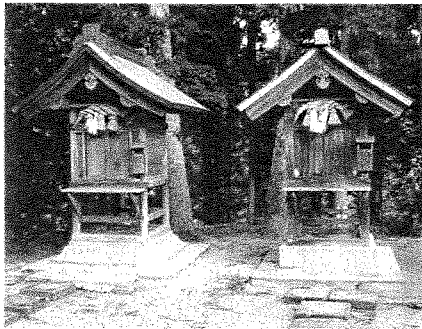
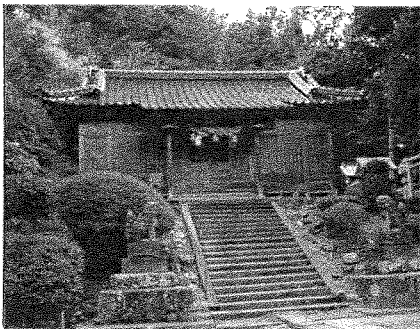
〔社名〕クマノノカミノヤシロ

〔所在〕平田市万田町四五〇に鎮座

平田駅下車バス十五分西田小学校北方一キロ

〔祭神〕

本庄町鎮座と同じだが、あの三神の他に、大名牟遲命を加える。



境内神社の祭神として少名彦命が祀られている。「記」では少名毗古那の神・名義は「体の小さい男」。「少名」は「少なし」の語幹。「毗古」は「彦」（男性）の意。「那」は小さなものにつける愛称。神むすびの神の御子で、その手の指の間から漏れ落ちた子だと伝承されている。葦原の色許男命の弟格として国作りをし、常世国に帰られた。現し国に幸いをもたらず神として信仰された。記では「神功皇后、太子に献酒」の条で、「酒の司常世にいます石立たす少な御神」とあり、百葉の長としての酒の神として信仰され、また石として立つ神、すなわち石神であった。

〔由緒〕本庄町鎮座の熊野神社と同じだが、坪内章宮司によると、「この地方では、紀州の熊野講として敬神の念厚く、毎年当家を選定し、紀州熊野大社に参拝していたが、財政事情もあり、大社の御分霊をうけて、産土の大神として祀った。」との由である。

今から四五十年頃から現在地上細田家（現樋野敏夫氏）が個人で造営したものであって、参拝には舟に乗って東万田中央の沼地を利用したもので、現在もその跡がある。

〔神職〕坪内 章宮司 祢宜坪内 茂。

〔祭祀〕十月十日

〔氏子崇敬者〕

〔境内地〕三五〇坪

〔社殿〕本殿 春日造二坪二五

幣殿 五坪 五

拝殿 九坪

〔神紋〕五三〇の桐

〔神事・芸能〕獅子舞